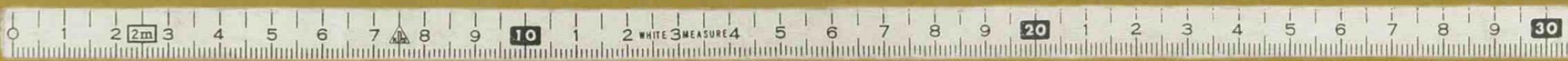
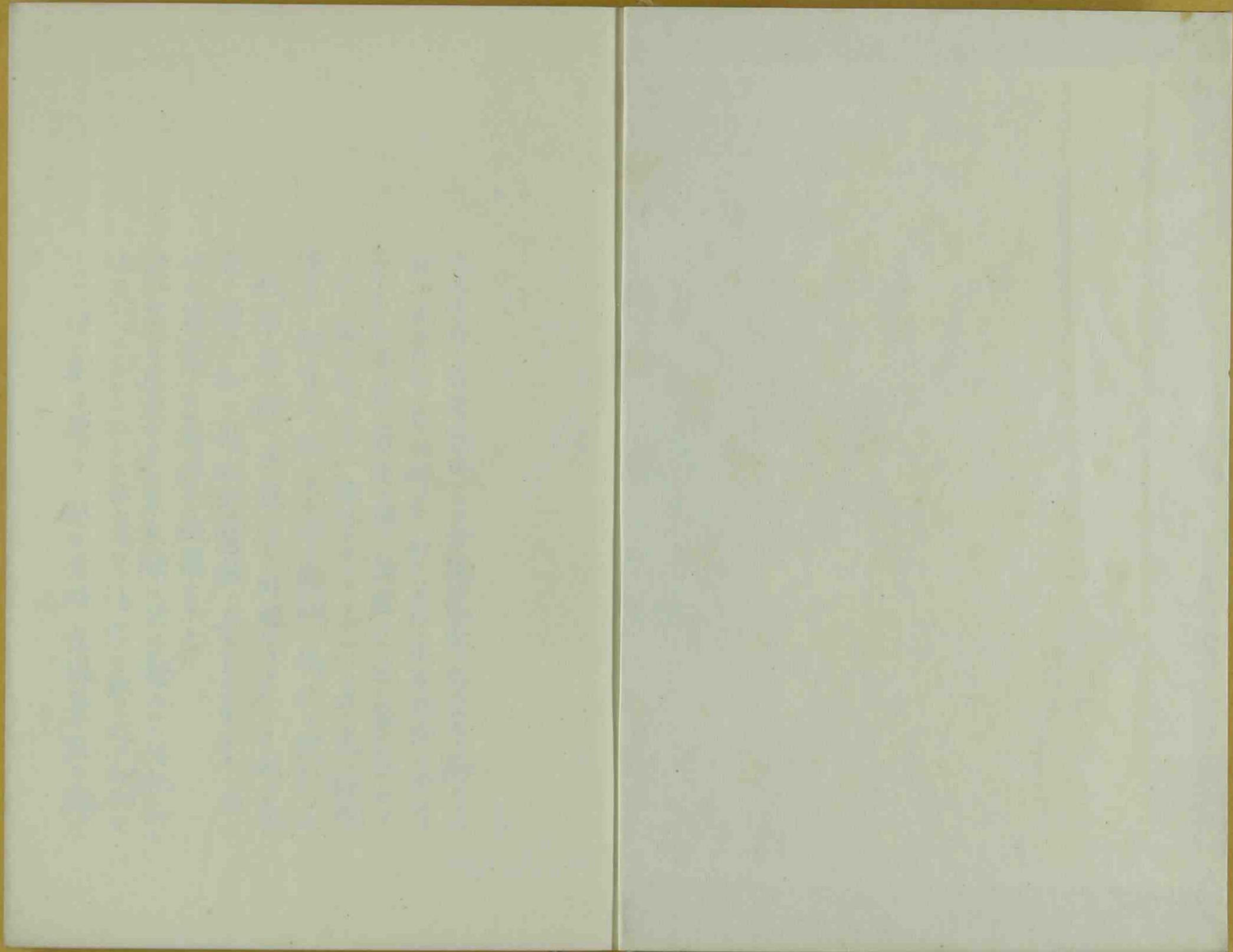
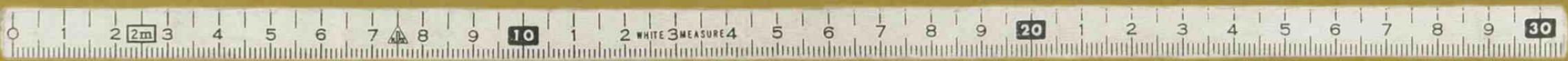


近世諸蕃來舶集一二

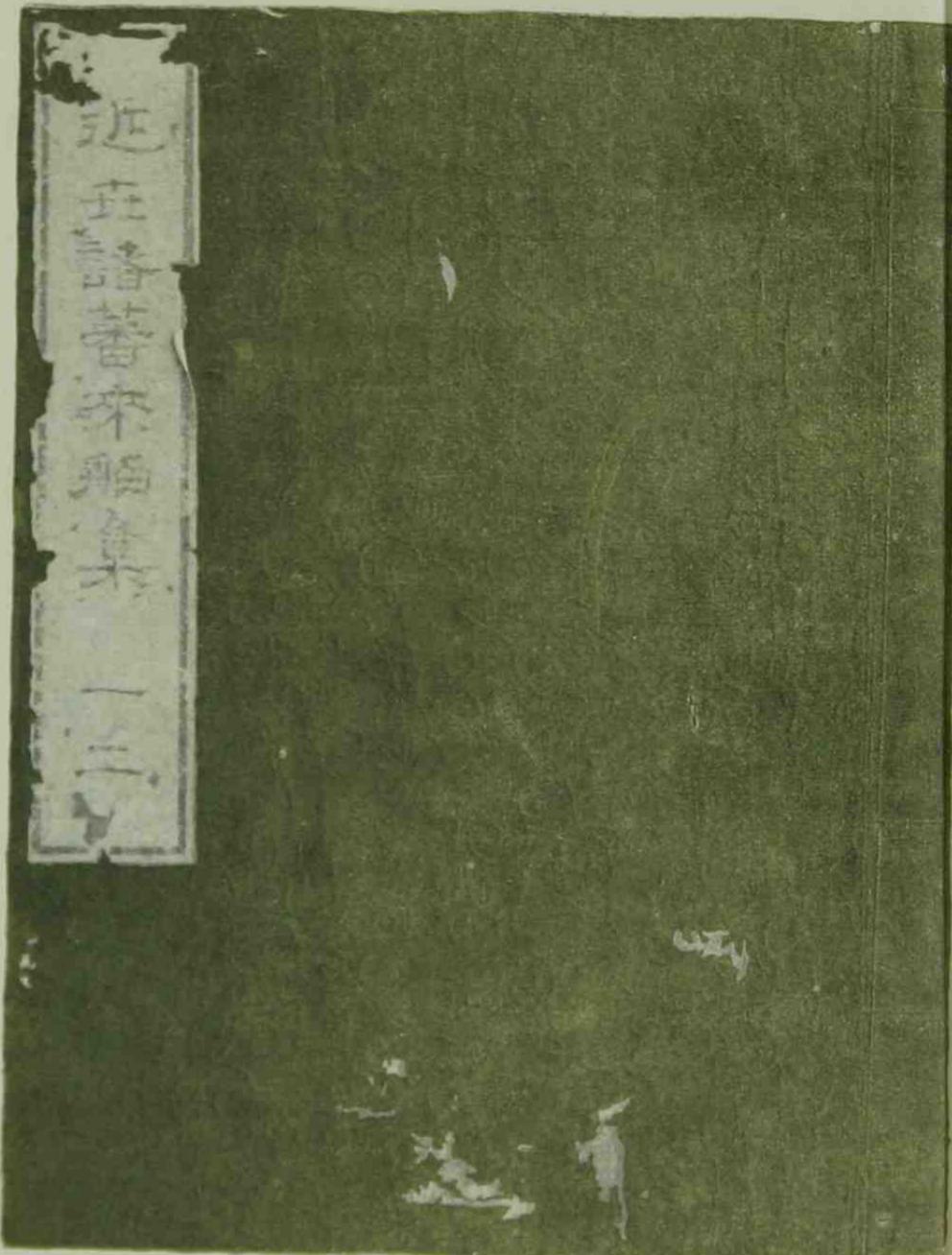




長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵



亡父千尋ノ著書稿本ニシテ今猶在匣底ニ存スルモノ歟カラス
就中本書或ハ未始神旨ノ如キハ嘉永年間即チ今日ヨリ
五十有餘年前ノ著述ニ係リ諸國交通ノ盛ナル今日ヨ
リ之ヲ觀レハ心スシモ一趣味ナキニアラサルヘシ且ツ夫レ鎖國
攘夷ノ論囂々ノ間ニ立チ能ク歐洲ノ情状ヲ搜討シ之
ヲ我國ノ事蹟ニ照查シ以テ外國ヨリ未リテ我ニ通
高ヲ請フハ抑モ我列聖遺猷ノ然ラシムルモノナリト之ヲカ
如キ其意ノアル所豈ニ徒爾ナラニヤ
余一日之ヲ某友ニ示ス某友頻ニ余ニ勸ムルニ活版ニ附シ
世ニ公ニセシコトヲ以テ余意フニ活字ヲ以テ之ヲ印刷セ
シムルハ便ハ則チ便ナリト雖モ當時ノ字樣筆跡ヲ顯ス



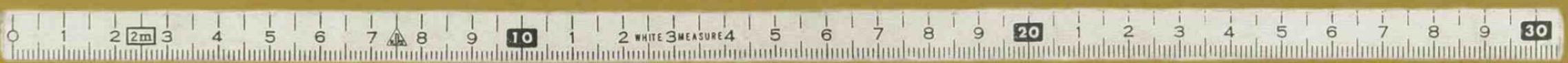
近世諸著來船集 一三二

コト能ハサルヲ以テ躊躇シ今日に至レリ而モ今ヤ印刷ノ術
大ニ進ミ所謂寫真石版ニ附シ印刷セシムルトキハ真モ
其字様筆跡ヲ變ゼス總テ原書ノ體様ヲ存ス因テ
今之ヲ改版ニ附シ以テ親戚朋友ニ頒ツ章ニ一讀ヲ
賜ハ、亡父ノ喜亦知ルヘキナリ

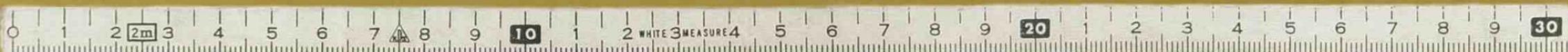
明治三十九年五月

故十尋二男

工學博士石黒五十二識



皇大神國ハ一毛の地の神は
神のまゝのまゝのまゝのまゝの
天皇のまゝのまゝのまゝのまゝの
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝの
谷模のまゝのまゝのまゝのまゝの
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝの
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝの
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝの
まゝのまゝのまゝのまゝのまゝの

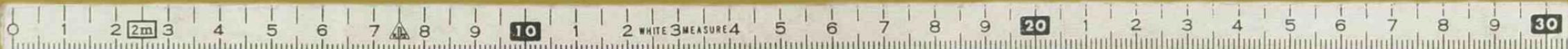


不流もつ代々くわあお外の園
ら物もみ後おさる持の進得ます
よ夫若年奉もよるよ神殖もよ
き〜平さめあふさ〜
あめあめは〜思〜
行末もあ國の王〜
うねおはきめま持の物もさお
よあてま守るるは末末へま理二

種もああふ〜平二津粟の
中はあ代もよる〜
原書もあふ〜
ら二味もあ〜
あつ〜西はは〜
あめあ〜
若もあ〜
あもあ〜

採て海り水魚奴たへりつて
採て海り水魚奴たへりつて
採て海り水魚奴たへりつて
採て海り水魚奴たへりつて
採て海り水魚奴たへりつて
採て海り水魚奴たへりつて
採て海り水魚奴たへりつて
採て海り水魚奴たへりつて
採て海り水魚奴たへりつて
採て海り水魚奴たへりつて

採て海り水魚奴たへりつて
採て海り水魚奴たへりつて
採て海り水魚奴たへりつて
採て海り水魚奴たへりつて
採て海り水魚奴たへりつて
採て海り水魚奴たへりつて
採て海り水魚奴たへりつて
採て海り水魚奴たへりつて
採て海り水魚奴たへりつて
採て海り水魚奴たへりつて



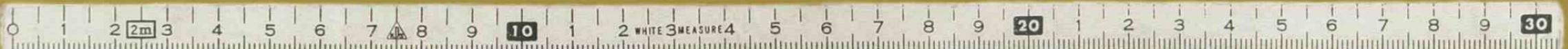
おはむらうのるうし思はふらうのまは
まふしよるひやと、此のりもみり
はしうのまらうす。

嘉永七年十月

葛田主人
まらう

近世諸蕃來舶集凡例

- 一 此書専ら 御治世以來、異國船の事共々、泰平
年表續泰平年表よる抄出して、其概畧を記す。
故小書目子記さる所る、皆年表此文と可し知
- 一 佗書よる抜萃たるを、悉く其書名字載あり。
- 一 朝鮮信使來聘琉球登 營の定例、支那、紅毛、通商
の事、其起原を記して、通例あるを記さす。
- 一 非常の限減奉じや、次連共、所見廣ら、履出、尤遺



漏多かるべし探索次第小増補を施す。

一 因こし海防守衛・武備練等の事を母記して時勢よ従ひ 御命令も沿革もるを志らさんと也。

一 嘉永五年北蘭王命令よこ出し咬啣巴都督職乃

筆記い同六年來船せし亞墨利加州合衆国の使節并

魯西亞国王使節ハ盤觴也其始未慥りかる物ヲ得

ざるハ暫く記さす。

一 來船の諸蕃風土等乃事も後又抄出もべし。

近世諸蕃來船集卷之一

ト外主人 輯録

波ハ杜ト尾ガ人ハ渡ル來ル鉄炮始渡

○西洋列国史畧よ一千五百四十二年日本天文十一年天文よ

波ハ爾ル杜ト尾ガ爾ル国の人アラシスユセイモ止アントニスモト

アリトニスヘキツ止等海小浮び風に隨ひて始める東

海日本國よ至る實に我日本天文十一年秋七月

の事よして豊後国神宮浦小泊を是歐邏巴人の

日本小至る始めかる波ハ爾ル杜ト尾ガ爾ル人ハ厚幣を

国史略云天文十四年の事とす其文云西洋杜瓦爾國商船泊大隅海上種島始傳鉄砲島主時究獲其術豊後国主奇之とあり何う是からん

以て国司大友宗麟と交易を通ぜむ事成請ふ大友宗麟則ち是を許と鉄炮の日本に渡り及び其製作此法の傳りし也此時の事也其明年の秋八月波^ハル杜^ト瓦^ガル^ル國の人六つ此大船に駕して又豊後に至る其一艘ハ大隅國種子^ナガ島に船も是時波^ハル杜^ト瓦^ガル^ル國より大友宗麟に獻する所の奇物珍宝極めて夥し宗麟其厚礼に答へむとて使を遣して波^ハル杜^ト瓦^ガル^ル國に至らしむ其正使齊藤源

助彼地にて病死し墓今に波^ハル杜^ト瓦^ガル^ル國の王都なる里西波亞の城に在と云

航海術の始

○西洋人地理測量の術順風小遇ひても破損の患ひを免堅固な船を造りて異域に通商せし始を記載して曰遷馬革命第一千三百四十六年小佛郎察の人始めて亞弗利加洲北西海から爲^レ亞國小至りて交易成るをとい

長崎奉行始

○文禄元年初て長崎奉行を置寺沢志广守廣教也是年同所乃代官を置村山安東也慶長五年御一統の時より同年まで廣教奉行たり同八年小笠

原一庵是小代也。同十一年長谷川左兵衛藤廣是
 小代也。元和元年長谷川權六是小代也。寛永三年
 水野河内守信是小代也。同六年竹中采女是小代
 也。同十年曾我又左衛門古祐今村傳四郎正長兩
 人被仰付古祐も竹中小代也。今村ハ江戸小在
 是よ也以來二人也成。隔年小在勤も貞享四年山
 岡對馬守被仰付此時よ也諸大夫と成。代官も村山安東よ代也。元和二年末次平藏被仰付子孫相繼て勤一処有罪て断絶。元文四年高木作左衛門被命

蘭人通商許
 容の次第

○阿蘭陀唐山乃肥前長崎よ來船一商を通せし始
 ら。足利將軍代織田豊臣兩家の時ハ暫置慶長
 五年諸国一統ニ歸せし年泉州坂浦よ。阿蘭陀本
 の極西小て歐羅巴洲乃内小在。国都をリスボンリスボン
 云其地七州有。阿蘭陀も其一州也。本國よ也。交響
 吧達五千九百六十哩。交響吧よ也。日本まで千八
 百八十里と云。環海異聞小。今魯西亞の属国。島国
 小。其名譽の美。国也。都府をロンドンと云。魯西亞乃
 都也。イトルフルカよ也。西南小當也。海上半月斗小て至
 ると。兼組小て大艘來着。通商を乞ふ。其事奉行よ
 急言上し。其船江戸浦よ廻し。巡り至るの処。遠州

灘めて凡波の爲小破船一蘭人ホ辛うして其地

小上り東海道を経て江府小到る願の趣御糺の

上通商交易の事 御免を蒙る其長かる者志む

志バ登 營一異国の事など御尋あり是よ江

府よ留る事歴年故よ阿蘭陀人の旅宿をマヨス

河岸と云 諸アムステルダム厄リヤ利亞人 今の英吉利の旅宿をアンジ

二町と云とど同十三年阿蘭陀船一艘肥前平戸

小着岸して云先年我本國に船出悦して今小歸

英吉利人江戸
へ被召

らむ傳聞貴國小在留とと其安否を問むがため

且通商を乞と也此由松浦肥前守鎮信よ駿府

小言上せしかむ即ち通商を免され御朱印を賜

む 按ずる小此時 東照宮御辭職の後た然

れ共諸書小よる諸蕃に事を皆公裁小出

づ蘭人ケンブルが書る鎖国論よ和蘭の印度交易を

我十七世乃始此頃よで常よ日本通商を千六百

年よ千七百年小至るを第十七世云云これ慶

長四年よ享保四年の間よあたる年間か其

人の生りある事も初來已後平生日本人のよく

知る処よして既よ當時國家の仇たる波爾杜尾

ル人と不知のいからる近頃有る吉利支丹が逆

の事よ付ても其志明小見えけむ海上よ其大

此細註誤脱
多しと難読

△からニ子脱

道通勞

銃を放て城を撃也と云也。○（アイツル將軍家よと許容の事二道（所字）を賜えと通商隨意たるべきの誓せ
也。初のハ千六百十一年（慶長六年。かくあれ共予ハ受られとて）アイツル
イ（ヤス公よと賜えと又のハ千六百十六年（元和二年。この西洋年舊も同）
彼御跡を継給へる。ヒテス公よと賜えとぬ。然れも
和蘭人此事ふ於て須らく規矩を立る術なくして
杜瓦爾人此爲小築たる固固共云べき居所を以
て和蘭人將來の住宅をもべしと也。是を国改立
去おめんも然べららばされを逆放□より置ん
り危しとの事ふれむふや。是は彼等常小許
多此官者此官府ふ誓盟をふして彼がとる所も
鎖細の事をさへ小密々守り戒る事を掌れる者
の辛き檢察を設て實ふ囚俘又を質人ふとれ
事ふし。□□唯は彼が註進小依て万国他州此
動靜如何と知べき外。殆更小用なき者の如し。下畧

英船禁通

是よと阿蘭陀（オランダ）諸厄利亞（アフリカ）の二国肥前平戸小來船
して通商せり。諸厄利亞（アフリカ）後故有て断絶も鎖国
論よ二通の線書の事からせむ。波（ポルトガル）杜瓦爾人
も。頭小国禁よもからせりて。出島小居ん事今の
和蘭人の如く成べしと云也。（波ハ杜瓦爾と鎖国
論ハあるハ諸厄利
亞成べしと泰
平年表小云リ）
○慶長十三年以來。卅三年の間。肥前平戸へ和蘭船
來船せしを。寛永十八年小至つて。向後同国長崎

夷船始
平戸來

小着船もべき由被^ニ仰出是よ^リ蕃国船今嘉永
年間小至ても支那^{カラ}和蘭^{イラン}共よ長崎へ來船也

長崎蕃船
入津と成
來由

○長崎ハ元大村家仕領地也其家小云所ハ民部大
輔純忠^ノ時元龜二年三月肥前長崎の丹町六町
を構へて蛮船入津の所とも其男丹後守嘉前^ガ
時天正十五年其地を以て□地として慶長十
年九月十一日領地長崎の外町及び屬邑を官^リ
收められ代地^ニして浦上^ニおて賜^レ之由也一書^シ

寄て是を参考も^スふ元龜元年長崎湊小南蛮船
初て着岸して商賣を遂く向後渡津と定度申を
願ふよ^リ翌年大村よ^リ家臣をして地割を定
め島原町大村町外浦町平戸町文知町横瀬浦町
六町是を建其後博多町樺島町今町五島町内丁
町出來夫よ^リ二十餘年を歴て文録の始又二十
三町出來た^リ町比頭人ハ高木勘左衛門後藤忠
太郎高島四郎兵衛高木新七町田宗賀白倉如庵

